氏名（本籍）	白木　渚
学位の種類	博士（医学）
学位記番号	博甲第　9922　号
学位授与年月	令和　3　年　3　月　25　日
学位授与の要件	学位規則第４条第１項該当
審査研究科	人間総合科学研究科
学位論文題目	女性管理職のメンタルヘルスに影響を与える因子の検討 －職業性ストレスからの考察－

主　査	筑波大学教授	医学博士	斎藤　環
副　査	筑波大学教授	博士（看護学）	岡山　久代
副　査	筑波大学教授	博士（医学）	佐藤　誠
副　査	筑波大学講師	博士（医学）	白鳥　裕貴

論文の内容の要旨

白木渚氏の博士学位論文は、女性管理職のメンタルヘルスと関連のある職業性ストレスとワーク・ファミリー・コンフリクトに着目し、女性管理職比率の異なる産業におけるストレス構造の違いを検討したものである。その要旨は以下のとおりである。

第１章では、著者は本論文の研究背景として、女性労働者の就労状況、女性管理職の割合と男女間の格差、女性労働者のメンタルヘルスに関わる要因と対策、女性管理職のメンタルヘルスと産業別にみた女性管理職の割合などについて、先行研究に基づいてまとめている。以上の背景を踏まえて、本論文の目的を女性管理職のメンタルヘルス問題を産業ごとに調査することであると述べている。

第２章で著者は「研究１　職業性ストレスが女性管理職・非管理職のメンタルヘルスへ与える影響 －筑波研究学園都市における横断研究－ 」として、筑波研究学園都市交流協議会所属の労働者を対象に実施されたアンケート調査結果の２次解析を行った結果について述べている。著者は解析対象を年齢 20～64 歳の常勤職員労働者として複数の尺度を用いてストレスを評価し、統計的に解析している。その結果、著者は以下のような結論を導いている。すなわち、女性労働者のみ、管理職であることと心理的苦痛の関連が低いこと。また、二項ロジスティック回帰分析の結果、女性管理職は対人関係の困難と心理的苦痛との間に関連があり、非管理職では質的負荷、対人関係の困難、達成感、同僚・上司の支援などと心理的苦痛との間に関連があること。また、女性管理職、非管理職ともに男女格差に関連した職業性ストレスと心理的苦痛の関連を認めたことから、著者は職場における差別や偏見による影響の存在を指摘し、女性管理職のメンタルヘルスの改善には、職場における男女格差の解消が重要であると述べている。

第３章で著者は「研究２　教員における女性管理職のメンタルヘルスに関する検討」として、女性管理職比率の異なる小学校と中学校における女性労働者のメンタルヘルスに影響を与える因子について検討している。著者は文部科学省が 2016 年 10～11 月に実施した公立小学校・中学校等教員勤務実態調査研究のデータを２次解析し、以下の結果を報告している。小学校女性教員では、職業性ストレスを考慮した二項ロジスティック回帰分析では、職位と心理的苦痛の関連を認めず、達成感、裁量度と心理的苦痛の負の関連を認めたこと。また、中学校女性教員では、管理職と心理的苦痛が低いこととの関連を

認めたこと。女性のみ職位と心理的苦痛の関連が学校種により異なる結果から、著者は女性労働者のメンタルヘルスに、職業性ストレスだけでなく、仕事外の要因が関係している可能性を指摘している。

第4章で著者は「研究3　労働環境及び家庭環境が女性管理職のメンタルヘルスに与える影響　－研究機関における横断研究－」として、女性労働者においてワーク・ファミリー・コンフリクトがメンタルヘルスへ与える影響についてアンケート調査を実施している。調査の対象は22歳～60歳の常勤職員であり、K6、職業性ストレス簡易評価尺度、ワーク・ファミリー・コンフリクト指標などの尺度により評価を行った。その結果について、著者は以下のように報告している。まず、職位と心理的苦痛の関連は認めなかったこと。心理的苦痛の高さと関連する要因として、質的負荷、ストレス反応に基づく仕事から家庭への葛藤が示唆されたこと。また、達成感、時間に基づく家庭から仕事への葛藤と心理的苦痛の低さとの間に関連があったこと。以上より著者は、女性労働者においては仕事から家庭への葛藤と心理的苦痛の高さが関連しており、ワーク・ライフ・バランスを考慮した多様な働き方を実現し、ワーク・ファミリー・コンフリクトを軽減していくことで、女性労働者のメンタルヘルスが向上していくと指摘している。

本研究のまとめとして、著者は以下のように述べている。学術研究・専門技術サービス業における調査では、女性の心理的苦痛は男女格差から影響を受ける可能性が示唆されたこと。女性管理職比率の異なる小学校と中学校における比較では、女性労働者の心理的苦痛には仕事外要因が関係している可能性が考えられたこと。また、女性労働者の心理的苦痛には、職位より両立葛藤の影響が大きい可能性が考えられたこと。以上より筆者は、男女格差の解消や仕事と家庭の両立葛藤が軽減することで女性のメンタルヘルスが向上する可能性について述べている。

審査の結果の要旨

（批評）

白木渚氏の博士学位論文は、これまで先行研究の少なかった女性管理職のメンタルヘルスという問題に焦点を絞り、管理職であることが一概にストレスになるわけではなく、たとえば学術研究・専門技術サービス業の場合はむしろストレスが低減されること、女性管理職比率の異なる職場では管理職のストレス構造も異なってくること、女性労働者一般の心理的苦痛には、ワーク・ファミリー・コンフリクトなど、仕事外の要因も影響が大きいことをあきらかにした点に大きな意義があり、その背景にあるジェンダーギャップの問題も考慮した射程の深い研究である。

令和3年1月4日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

よって、著者は博士（医学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。